

大津小便り

平成二十八年
七月二十一日
NO六
文責 吉良智

夏休みに入るに当たり、この数ヶ月を振り返ってみます。

四月十四日の前震、十六日の本震から、三ヶ月余りが過ぎました。前震があつた夜は、三難所対応を終え、校長室で一夜を過ごした私は、本震に襲われた夜は、自宅に戻つて、突然、突き上げるような強い揺れに襲われ、為す術もなく、ただベッドで恐怖に震えていた私でした。その後、家族でオーラス広場に避難。ブルーシートの上で寒さと揺れの恐怖に耐えながら教頭先生や教育委員会と連絡を取り合いました。やつと連絡が付き、危険を避けて夜明けを待ち学校へ駆け付けることにしました。

は運動場に何台も駐まつていました。駆け付けた教頭先生方と玄関先や職員室を少しずつ片付けながら、メールによる職員や児童の安否確認を行いました。屋過ぎに、二年生教室を避難所に開設することになり準備を行いました。十六日の夜は、我が家からおにぎりを持参して校長室に泊まることに・・・。避難者への食事配給では車中泊の方々も多く、やつと数は足りたものの小さなおにぎりを一つと水が一人分でした。食べることのできる有り難さを再度、確認しました。

十七日の日曜日も、数名の先生方と片付けに追われましたが、お陰で、職員室や事務室、給湯室も使えるようになりました。

併せて、地区毎の通学路の点検や危険箇所のチエツクを行い、地区毎の地図にまとめていきました。南阿蘇西小学校からの子どもたちの一時受け入れの依頼が、この頃、教育委員会からありました。

四月二十一日（木）は、大雨警報が発令される中でしたが、引き続き、児童の避難状況を把握しながら、家庭や地区の訪問を行いました。ガラスなどの不燃物を捨てに行ったり、避難所の清掃を行つたりしながら、やつと職員玄関の金魚が入つた水槽を元の場所に戻しました。翌二十二日（金）の町内臨時校長会において、休校措置の再延長と五月九日（月）の授業再開、それまでに四日間（二十七日・二十八日・五月一日・六日）の学校開放日を設けることが決まりました。

午後からは、兵庫県教育支援団体アースの常見さんを迎えて、子どもたちの心のケアについて、全職員での研修を実施しました。

四月二十五（月）と二十六日（火）は、四日間各学校開放日を心のケアの第一歩にするために、各学年で内容を検討するとともに、登校児童の受け付けや確実に保護者へ引き渡すための方法などを検討し合いました。その一方で、運動会の実施や今後の学校行事等の実施などを話し合いました。南阿蘇西小学校立野地区の子どもたちの一時受け入れの説明会が、二十六日に、本校の図書室を借りて実施されました。

四月十八日（月）には、多くの職員が出来ましたので、朝から、再度、個々の児童の安否確認をする班と校舎内外の点検をする班とに分かれ仕事を開始しました。昼前には、児童全員の無事が確認され、現在の避難状況等も把握出来ましたので、各教室の片付けを協力して始めました。午後からの町内校長会議で被害状況を報告するとともに、二十二日（金）までの町内全小中学校の休校が決まりました。翌、十九日（火）の午後、町教育委員会が建築士を伴つて来校。前日の点検結果の一覧表を手渡し、それを元に校舎内外の点検をしてもらいました。どうにか校舎棟は使用出来そうな雰囲気でしたが、体育館については、一目見て、使用は絶望的であることを告げられました。大きなショック。

四月二十日（水）からは、引き続き、校舎内のトイレや倉庫、特別教室などの片付けを協力して行いながら、午後からは、自宅被害等が大きかつた児童の家や地区毎の避難所等への訪問を、学年部毎に実施しました。避難所の手伝いも同時に実施しました。

四月二十七日(水)から四日間の学校開放を実施。学校に来た子どもたちの人数等をチェックし、午後からは職員で反省会を行い、次回の学校開放や児童の引渡し方法等を改善していきました。学校再開に向けた準備をしながら、少しづつ変わる児童の避難状況等を朱書き訂正しながら継続把握していきました。学校の浄化槽を点検した時、大量の漏水が発覚。汲み上げポンプが動いていると水が出ますが、ポンプを止めた途端、数分で水は出ません。タンクの水が漏れている証拠です。結局、ポンプが壊れるのを防ぐため一週間ほどは、児童の下校後は断水状態が続きました。五月九日(月)の授業再開日に一時避難してくる南阿蘇西小学校の子どもたちの名簿が届いたのは、五月六日(金)の午後二時頃でしたが、全職員で、受け入れ学級決めや机等の準備を行いました。

